

科目名	保育内容総論	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	鈴木 寛典	開講 時期	1 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			前半		
レポート期間	講師の指定による	試験期間	授業最終回		
授業の目的	<p>保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とする。</p>				
授業の概要	<p>保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実例をもとに解説する。</p> <p>※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。</p>				
授業の計画	<p>第1回： 保育の全体的構造 ①育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期のおわりまでに育てほしい10の姿 ②領域の考え方と乳児保育の領域</p> <p>第2回： 保育内容の歴史的変遷 ①変遷にみる特徴 ②変遷</p> <p>第3回： 養護と教育の一体的展開 ①養護的なかかわりと教育的なかかわり</p> <p>第4回： 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ①乳幼児にとっての園行事の意味と在り方 ②保幼少の円滑な連携</p> <p>第5回： 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 ①環境を通して行う保育 ②遊びによる総合的な保育</p> <p>第6回： 全体的な計画の作成と指導計画の作成 ①全体的な計画の作成 ②指導計画の作成手順と配慮</p> <p>第7回： 保育の評価と保育の記録 ①幼児理解に基づく評価 ②観察記録を書く意味と幼児理解</p> <p>第8回： 保育内容の現代的課題について ①子育て支援 ②多文化共生保育</p>				
成績評価方法	中間レポート・中間/期末試験・受講態度によって総合的に評価する				
テキスト	和田幸司 他編「教職論」 フレーベル社「保育所保育指針解説」、「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」				
持ち物	ノートまたはルーズリーフ・ファイルなどプリントを保管できるもの・筆記具				
履修上の 注意事項	グループワークなどでは、積極的な議論への参加、意見の評価を期待します。				

科目名	こどもの指導法 「リズム表現」	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	田村 寿代	開講 時期	1年前期 前半/集中	必選区分・ 資格・免許	保・幼必修
		レポート期間	試験期間		
授業の目的	<p>保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も併せて修得する。</p> <p>表現に関する知識や保育技術の修得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指す。</p>				
授業の概要	<p>幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せないほど密接な関係にある。本授業では幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現、言語表現、造形表現から学習する。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう、指導援助者としてあるべき姿を追求していく。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」についての基本的な考え方 2. 基礎リズム 3. 基本動作 4. タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解 5. 楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成 6. 領域「表現」と小学校教科等のつながり 7. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助について、模擬保育の実践と振り返り 8. リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り 				
成績評価方法	受講態度、授業態度等を総合的に評価				
テキスト	「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
持ち物	配布テキスト、筆記用具				
履修上の 注意事項					

科目名	比較憲法	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	担当講師	開講 時期	1年前期	必選区分・ 資格・免許	保・幼 選択必修
			全		
レポート期間			試験期間		授業最終日
授業の目的	<p>① 社会的な事象を比較するとはいかなる意義および特色を有するのかを理解し、物事に対する比較的な検討を行う視座を養う。</p> <p>② 諸外国の憲法史について考察することを通じて、近代立憲主義が有する意義（と限界）を正確に理解し、説明することができる。</p> <p>③ 諸外国の憲法および憲法学について考察することを通じて、日本の憲法のありようを相対的・客観的に理解し、説明することができる。</p>				
授業の概要	<p>授業は、日本における憲法やそれをめぐる議論を念頭に置きながら、諸外国における憲法の歴史、理念、制度、学説、判例の検討を行う形で進められる。</p>				
授業の計画	<p>第1回 比較憲法（学）とは何か 第2回 比較憲法の方法 第3回 憲法史①：近代市民革命と憲法 第4回 憲法史②：近代立憲主義の確立過程 第5回 憲法史③：近代立憲主義の現代的危機 第6回 比較憲法学各論①：フランス憲法 第7回 比較憲法学各論②：ドイツ憲法 第8回 比較憲法学各論③：アメリカ憲法 第9回 比較憲法学各論④：イギリス憲法 第10回 比較憲法学各論⑤：EUにおける基本権保障と民主主義、EUの諸機関、EUの権限体系 第11回 比較憲法学各論⑥：ロシア憲法 第12回 比較憲法学各論⑦：東アジア諸国の憲法（中国、韓国、台湾） 第13回 比較憲法学総論①：現代憲法下の人権保障 第14回 比較憲法学総論②：現代憲法下の統治構造 第15回 比較憲法学総論③：司法制度と違憲審査制 第16回 授業のまとめと試験</p>				
成績評価方法	<p>授業出席時間数が2/3を超えた者を対象として以下のように成績評価を行います。①授業への参加態度や授業時間内に実施される小テスト等の平常点：25%、②中間レポート：25%、③期末試験：50%。この結果、80点以上の者に優、70点以上の者に良、60点以上の者に可を与え、60点未満の者を不可とします。</p>				
テキスト	<p>（教科書）学校指定のもの。授業の初回で配布する日本国憲法の条文を毎回必ず持参してください。なお、本授業は受講生にノートをとってもらふことを前提としますので、ノートも忘れずに持参してください。</p> <p>（参考書）授業の進展に応じて、適切なものをそのつど紹介します。</p>				
持ち物	<p>授業で配布する資料、授業の初回で配布する諸外国の憲法条文集、ノートを毎回必ず持参してください。</p>				
履修上の 注意事項	<p>受講生の到達度・理解度を確認し、把握するために、毎回の授業で簡単なペーパーの提出を求めます（長くてもレポート用紙1枚程度）。授業内容の理解を問う小テストの場合もありますし、授業の感想を自由に尋ねる場合もあります。これは主に成績評価の25%を占める平常点として考慮されます。</p>				

科目名	社会的養護 I	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	佐藤 恵美子	開講 時期	1年前期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			全		
レポート期間	講師の指定した日		試験期間	授業最終日	
授業の目的	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. こどもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職などについて理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。				
授業の概要	子ども・家庭を取りまく環境について理解を深め、さらに現在の様々な社会的養護にかかわる課題とその対応、将来的な展望について考察を深める。				
授業の計画	第1回 社会的養護の理念と概念 第2回 社会的養護の歴史の変遷 第3回 社会的養護の基本 第4回 児童の権利擁護と社会的養護 第5回 社会的養護の制度と法体系 第6回 社会的養護の仕組みと実施体系 第7回 家庭的養護と施設養護 第8回 社会的養護の専門職・実施者 第9回 施設養護の基本原則 第10回 施設養護の実際 第11回 施設養護とソーシャルワーク 第12回 施設等の運営管理 第13回 倫理の確立 第14回 被措置児童等の虐待防止 第15回 社会的養護と地域福祉 第16回 まとめ・試験				
成績評価方法	レポート・試験・出席率				
テキスト	社会的養護 I：豊岡短期大学発行教本（両コース共）				
持ち物	テキスト・筆記用具				
履修上の 注意事項	積極的に授業に参加すること				

科目名	保育の心理学	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	岸 靖亮	開講 時期	1年前期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	<p>1、保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。</p> <p>2、子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。</p> <p>3、乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。</p>				
授業の概要	<p>幼稚園、保育園における園児とのかかわりについて、心理学を基礎にして考察する。特に子どもの発達、子どもの相互のかかわりの意味を理解し、その援助の在り方について、基本的な理解を促すことを目的とする。</p>				
授業の計画	<p>第1回 1. 保育と心理学 (1) 発達とは・こどもの発達を理解することの意義</p> <p>第2回 (2) 発達の原理</p> <p>第3回 (3) 発達段階と発達課題</p> <p>第4回 2. 子どもの発達の理解 (1) 現代の発達理論：ピアジェ</p> <p>第5回 (2) ピアジェの認知発達理論</p> <p>第6回 (3) 現代の発達理論：エリクソン</p> <p>第7回 知覚の世界</p> <p>第8回 乳児の知覚</p> <p>第9回 パーソナリティ</p> <p>第10回 遊びの発達</p> <p>第11回 3. 人との相互的関わりと子どもの発達 (1) 愛着の形成と発達</p> <p>第12回 (2) 愛着の個人差</p> <p>第13回 精神保健</p> <p>第14回 脳神経科学からみる症例</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 試験</p>				
成績評価方法	出席率、授業態度、試験				
テキスト	無し（ノートを取り、自身で資料を作成する）				
持ち物	筆記用具、ノート				
履修上の注意事項	授業には意欲的に取り組み、毎時間ノートをしっかり取る				

科目名	ピアノ I	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	1年前期	必選区分・ 資格・免許	保・選択必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人的レッスンでピアノを使用して学び、基礎固めをする。				
授業の概要	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスンでピアノを使用して学び、基礎的技術を習得する。初心者はバイエル教則本、経験者は個人のレベルに合った教則本を使用し、演奏技術及び読譜力の向上を目指す。				
授業の計画	<p>第1回 オリエンテーション ピアノ演奏技術を確認</p> <p>第2～3回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について学習し、演奏する</p> <p>第4～5回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法に気をつけながら演奏する。</p> <p>第6～11回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法、正確なリズム・速度・拍子を学習し、演奏する</p> <p>第12～14回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法、正確なリズム・速度・拍子などに気をつけながら演奏する。 試験曲の選曲をする。</p> <p>第15回 試験曲を暗譜で演奏する。</p> <p>第16回 試験・まとめ</p>				
成績評価方法	出席状況及び受講態度・実技試験（バイエル60番以上であれば通常評価、50～59番であれば可、49番以下の場合には評価をつけることができません）				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・バイエルの教則本（こどものバイエルでもよい） ・進度の進んでいるものは各自のレベルの楽譜 				
持ち物	教本・ピアノカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	<p>次回授業に備えてしっかりと事前に練習をしておくこと。</p> <p>上靴を着用し、受講すること。</p> <p>遅刻、長爪、マニキュア、指輪、教本忘れ、練習不足は欠席扱いとする。</p>				

科目名	保育活動 I	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	宮ケ丁 絵美	開講 時期	1年前期	必選区分・ 資格・免許	保・幼必修
			前半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	保育内容を理解し、こどもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。				
授業の概要	こどもの生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。手遊びや見立てあそび、ごっこ遊び、運動遊びなど、保育士や他のこどもとの関係や集団の中での体験を豊かにするための知識と技術を習得する。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 授業説明と評価方法 「ともだちづくり」としての表現活動 第2回 集団あそび（鬼ごっこ） ハンカチあそび 第3回 年中行事の製作活動（こいのぼり製作） 第4回 伝承あそび・わらべうた 第5回 音楽に合わせた表現活動 第6回 集団あそび 第7回 ジャンケンであそぼう 第8回 発表試験（手遊び）				
成績評価方法	出席状況、授業態度および発表試験の総合評価				
テキスト	プリント（授業毎に配布）				
持ち物	・A4ポケットファイル（ポケット数の多い物）、ジャージ、上靴、筆記用具				
履修上の 注意事項	・積極的な受講態度を評価します ・髪は束ね、アクセサリは不可です ・専門職としての技術習得科目となる為、出席状況も重視します				

科目名	パネルシアター	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	加福 圭子 虎谷 美香	開講 時期	1年前期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			前半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容を理解し、こどもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 ・パネルシアターを製作し、実践方法や活用方法を学ぶ。 				
授業の概要	<p>こどもの生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。</p> <p>児童文化財（パネルシアター）に親しむ体験を豊かにするための知識と技術を習得する。</p> <p>素材の特性の理解とそれらの活用や作成に必要な知識及び技術について製作活動を通して学ぶ。</p> <p>※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。</p>				
授業の計画	<p>第1回 パネルシアターについて（種類、材料）</p> <p>第2回 パネルシアター作成（絵人形作成）</p> <p>第3回 パネルシアター作成（絵人形作成）</p> <p>第4回 パネルシアター作成（絵人形作成）</p> <p>第5回 パネルシアター作成（パネル板作成）</p> <p>第6回 パネルシアター作成（パネル板作成）</p> <p>第7回 パネルシアター作成（台本読み合わせ、練習）</p> <p>第8回 絵人形提出・パネル板完成</p>				
成績評価方法	出席状況、授業態度、提出物の総合評価				
テキスト	プリント（授業毎に配布）				
持ち物	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具…ポスカ（学校配布）等 ・適宜、授業内で次回の授業の持ち物は伝えます 				
履修上の 注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な参加態度を評価します ・専門職としての技術習得科目となる為、出席状況も重視する ・提出物は期限内に必ず提出すること 				

科目名	合奏指導	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	村田 昌史	開講 時期	1年前期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			前半		
レポート期間			試験期間	授業最終日（発表）	
授業の目的	歌、器楽合奏などを通じて幅広く幼児音楽を習得				
授業の概要	幼児音楽で使用されるとする楽器、歌、それらの指導法などの授業				
授業の計画	<p>第1回 基礎楽典（拍子、音符、休符の学習）</p> <p>第2回 ミュージックベル合奏（説明、指導法）</p> <p>第3回 年少～年長対象の器楽合奏（ピアノ、木琴、鉄琴、カスタネット他） （各楽器の説明）</p> <p>第4回 曲に合わせた「リズム作成」の作り方（打楽器）</p> <p>第5回 グループ分けでの器楽合奏（2～3グループ）</p> <p>第6回 各グループで選曲</p> <p>第7回 楽器割り当て（ピアノ・木琴・打楽器など）</p> <p>第8回 発表・まとめ</p>				
成績評価方法	実技、筆記評価、授業態度、出席率				
テキスト	こどものうた200、続こどものうた200				
持ち物	筆記用具（ホチキス・定規）、こどものうた200、続こどものうた200				
履修上の 注意事項	授業態度に注意すること 欠席しないこと				

科目名	保育実習指導 I	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	池田 悦子	開講	1年前期・後半	必選区分・ 免許・資格	保・必修
		時期	1年後期・後半		
レポート期間	保育実習 I 終了後		試験期間		
授業の目的	<p>1. 保育実習の意義・目的を理解する。保育所・認定こども園・児童養護施設のそれぞれの意義を知る。</p> <p>2. 実習の流れと実習の心得を学ぶ。</p> <p>①実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)を学ぶ。</p> <p>②社会人のマナーやほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性を知る。</p> <p>3. 実習の目標・実習課題を学ぶ。</p> <p>①実習課題の設定の仕方を学ぶ</p> <p>②指導案の意味と立て方を学ぶ</p> <p>③実習日誌の書き方を学ぶ</p> <p>4. 実習指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・目標を設定する。</p>				
授業の概要	<p>実習の意義・目的を理解し、今までの学びを考えながら、子どもをどう援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得をテキスト中心に学び、自分の実習課題を考える。(演習)保育指導案・実習日誌の書き方を学ぶ。事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行い新たな課題や目標を設定する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義・目的を知る 2. 保育所とは何か、その現状 3. 新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 4. 保育所の職場構成と連携 5. 社会人のマナー ほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性 6. 保育実習の内容と方法 7. 緊急時の対応(ケガ・地震・火事等)、事故予防について 8. 実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)とは何か 9. 実習日誌の書き方・保育指導案の立て方 10. 保育技術の利用 絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等 11. 児童養護施設の種類および特徴 12. 社会的養護の原理・原則および支援について 13. プライバシーの保護と守秘義務 14. 児童福祉施設の多職種および他機関との連携の仕方 15. 事後学習 実習の総括と自己評価 新たな課題や自己目標の明確化 				
成績評価方法	出席率、授業態度、提出物				
テキスト	授業時プリント配布				
持ち物	A4ファイル(多く入るもの)、筆記用具				
履修上の注意事項	保育実習に向けての授業となります。				

科目名	手作りおもちゃⅠ	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	小枝 玲子	開講 時期	1年前期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	実習に向けての下準備 現場での最低限の布の扱い方や縫い方を学ぶ				
授業の概要	手作りの大切さ、暖かさを学習する 実習中に子ども達の喜ぶ顔を思い浮かべ自分も楽しめる作品作り				
授業の計画	第1回 授業内容説明及び手芸の基礎 第2回 手芸の基礎 第3回 手芸の基礎 第4回 手芸の基礎 第5回 手芸の基礎 第6回 パクパク人形 第7回 パクパク人形 第8回 パクパク人形 第9回 軍手シアター 第10回 軍手シアター 第11回 軍手シアター 第12回 軍手シアター 第13回 実習用名札 第14回 実習用名札 第15回 実習用名札 第16回 実習用名札				
成績評価方法	提出物、出席日数、授業態度				
テキスト	プリント配布				
持ち物	裁縫道具（紙用ハサミ、布用ハサミ、針は必須）、筆記用具、木工用ボンド				
履修上の 注意事項	提出物期限厳守				

科目名	ペン字	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	講義
担当教員	書峰社書道	開講 時期	1年前期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			後半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	身上書・履歴書の作成				
授業の概要	ひらかな、カタカナの正しい字形を会得し、実習に向けての身上書の完成を目指す。				
授業の計画	第1回 ひらかな・カタカナ（履歴書下書提出） 第2回 横書（「保育の3つのチカラを書く」） 第3回 身上書 第4回 身上書 第5回 身上書 第6回 履歴書 第7回 履歴書 第8回 履歴書仕上げ				
成績評価方法	受講態度 出席状況 提出物				
テキスト	プリント				
持ち物	筆記用具				
履修上の 注意事項	授業態度に注意すること 欠席しないこと				

科目名	保育原理	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	武田 克江	開講 時期	1年前期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			全		
レポート期間	講師の指定した日		試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育原理では、保育・幼児教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保育者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追求する。				
授業の概要	<p>保育原理では、子どもをとりまく環境を踏まえながら、「保育とは何か」を広い視野から捉えて」保育全般を学ぶ。具体的には、保育の意義と目的、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育におけるさまざまな課題に関する認識を深める。</p> <p>※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。</p>				
授業の計画	<p>第1回 保育とは何か(1) 保育の意義と目的</p> <p>第2回 保育とは何か(2) ①子どもの最善の利益を考慮した保育 ②保育の社会的意義</p> <p>第3回 保育とは何か(3) ①家庭との連携 ②地域との連携</p> <p>第4回 保育所保育指針における保育の基本(1) ①保育の目標と方法 ②養護と教育の一体性</p> <p>第5回 保育所保育指針における保育の基本(2) ①環境による保育 ②発達に応じた保育</p> <p>第6回 保育所保育指針における保育の基本(3) ①保育の計画と評価 ②子どもの健康と安全</p> <p>第7回 保育所保育指針における保育の基本(4) ①子育て支援 ②保育士の専門性</p> <p>第8回 保育の質を高めるための方法(1) 望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う</p> <p>第9回 保育の質を高めるための方法(2) 生活と遊びを通して総合的に行う保育</p> <p>第10回 保育の質を高めるための方法(3) 保育における個と集団への配慮</p> <p>第11回 保育の思想と歴史的遍歴(1) 欧米の保育思想の展開と保育施設の発展</p> <p>第12回 保育の思想と歴史的遍歴(2) わが国における保育の歴史的遍歴</p> <p>第13回 保育の制度(1) ①保育所について ②幼稚園について</p> <p>第14回 保育の制度(2) ①認定こども園について ②家庭的保育事業について題</p> <p>第15回 保育の現状と課題 ①日本の保育の現状と課題 ②外国の保育の現状と課題</p>				

	第16回 まとめ・試験
成績評価方法	出席状況、試験、授業態度
テキスト	「保育原理」中央法規 フレーベル社「保育所保育指針解説」及び「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」
持ち物	テキスト・筆記用具
履修上の 注意事項	授業態度に注意する事 欠席しない事

科目名	保育実習 I (保育所)	単位	4	学科	こども学科
		時間	80	授業形態	実習
担当教員	池田 悦子	開講時期	1年後期(原則)	必選区分・ 免許・資格	保・必修
レポート期間	なし		試験期間		
実習の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する、 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について、具体的に理解をする。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的に理解する。 				
実習内容	<p><保育所実習の内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画・観察・記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育士の役割と職業倫理 				
成績評価方法	<p>実習日誌の提出及び実習先評価等により総合的に評価する。 定められた時間に満たない場合は、評価されません。</p>				

科目名	保育活動Ⅱ	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	菊池 美奈	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・選択必修
			後半		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育活動Ⅰを基に、保育所実習に活用できる遊びを実践し学ぶ				
授業の概要	<p>子どもの自立心や社会性を育てられるような集団遊びを実践する。</p> <p>各々のねらいに基づいた集団遊びを学ぶ。</p> <p>各々の活動のねらいを考える。</p> <p>保育所実習で実践できる製作や遊びを紹介する。</p>				
授業の計画	<p>第1回 集団で楽しめる遊び（3歳児 一人遊びから友達との遊びへ）</p> <p>第2回 集団で楽しめる遊び（4歳児 ルールを知る。勝敗を経験する）</p> <p>第3回 集団で楽しめる遊び（5歳児 競争・協力・役割分担など）</p> <p>第4回 身近なもの（廃材）を利用した遊び①</p> <p>第5回 身近なもの（廃材）を利用した遊び②</p> <p>第6回 表現遊び</p> <p>第7回 実習に向けて（導入～主活動～まとめの実践）</p> <p>第8回 試験</p>				
成績評価方法	出席状況 受講態度 日常点 発表				
テキスト	保育活動～プリント（授業毎に配布）				
持ち物	<ul style="list-style-type: none"> ・A4 ファイル（袋型又は2つ穴）、筆記用具 ・適宜、授業内で次回の授業の持ち物は伝えます 				
履修上の 注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な参加態度を評価します ・専門職としての技術習得科目となる為、出席状況も重視する ・試験欠席の場合は不可とする ・服装、持ち物等は必ず指示に従うこと 				

科目名	こどものうた I	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・選択必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育者として最も必要とされる弾きうたいの技術・技能を習得する。				
授業の概要	「あいさつ」曲からレッスン（おはよう）（おべんとう）（おかえりのうた）。 学生のピアノ進度に沿った弾きうたいを行い、保育園実習に備える。				
授業の計画	第1回 進度に沿った課題曲（発声法—姿勢・呼吸法） 挨拶のうた（おはよう・おべんとう・おかえりのうた） 第2回 課題曲（読譜力・リズムの練習・発声法） 第3回 課題曲（読譜力・リズムの練習・発声法） 第4回 課題曲（読譜力・リズムの練習・発声法） 第5回 課題曲（読譜力・リズムの練習・発声法） 第6回 課題曲（読譜力・リズムの練習・発声法） 第7回 課題曲（歌詞に合った歌い方・フレーズに合った息つぎ、歌と伴奏のバランス） 第8回 課題曲（歌詞に合った歌い方・フレーズに合った息つぎ、歌と伴奏のバランス） 第9回 課題曲（歌詞に合った歌い方・フレーズに合った息つぎ、歌と伴奏のバランス） 第10回 課題曲（歌と伴奏のバランス・テンポ・実習に必要な歌） 第11回 課題曲（歌と伴奏のバランス・テンポ・実習に必要な歌） 第12回 課題曲（歌と伴奏のバランス・テンポ・実習に必要な歌） 第13回 試験曲の決定 課題曲（歌と伴奏のバランス・テンポ・実習に必要な歌） 第14回 試験曲・課題曲（歌と伴奏のバランス・テンポ・実習に必要な歌） 第15回 試験曲（仕上げ）・課題曲 第16回 試験 ※必ず前奏を入れる ※2番まで歌う（1番のみの曲は繰り返す）				
成績評価方法	出席状況及び授講態度・実技試験（挨拶のうた3曲を終了し、「こどものうた200」より選曲し実施）				
テキスト	こどものうた200・プリント				
持ち物	教本・こどものうたカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	遅刻、長爪、マニキュア、指輪、教本忘れ、練習不足は欠席扱いとする。 レッスン前後の挨拶の徹底。事前に練習しておくこと。				

科目名	ピアノⅡ	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・選択必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	1. ピアノの基礎的技術を習得する。 2. 演奏技術及び読譜力の向上を目指す。 3. 初心者の習得目標はバイエル教則本 100 番とする。				
授業の概要	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスンでピアノを使用して学び、基礎的技術を習得する。初心者はバイエル教則本、経験者は個人のレベルに合った教則本を使用し、演奏技術及び読譜力の向上を目指す。初心者の習得目標はバイエル教則本 100 番とする。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション ピアノ演奏技術を確認 第2～3回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について学習し、演奏する 第4～5回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法に気をつけながら演奏する。 第6～11回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法、正確なリズム・速度・拍子を学習し、演奏する 第12～14回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法、正確なリズム・速度・拍子などに気をつけながら演奏する。 試験曲の選曲をする。 第15回 試験曲を暗譜で演奏する。 第16回 試験				
成績評価方法	出席状況及び受講態度・実技試験（バイエル 90 番以上で通常評価、81～89 可、～80 は評価をつけることができません）				
テキスト	バイエルの教則本（こどものバイエルでもよい） 進度の進んでいるものは各自のレベルの楽譜				
持ち物	教本・ピアノカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	事前によく練習をしておくこと				

科目名	日誌指導 I	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	船橋 麗可	開講 時期	1年前期・後半	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			1年後期・前半		
レポート期間			試験期間	提出日を随時設定	
授業の目的	<p>保育所実習に向けて、実習日誌の記録方法について学ぶ。 実習における日誌の必要性について理解し、有効な活用方法について学ぶ</p>				
授業の概要	<p>保育実習記録としての日誌のあり方について学ぶ。実習日誌の必要性及び記録の方法について模擬日誌作成の演習を通し、具体的に理解する。実習後の総括と自己評価及び課題の明確化につながる記録としての日誌の位置づけについても理解する。</p> <p>※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。</p>				
授業の計画	<p>第1回 オリエンテーション、 第2回 各基礎項目の記入方法及びオリエンテーション時の日誌の書き方 第3回 保育所の一日の流れを知り、理解する 第4回 保育内容に沿った実習記録のあり方① 第5回 見学・観察実習時の日誌について 第6回 保育内容に沿った実習記録のあり方② 第7回 参加実習時の日誌の書き方 第8回 保育内容に沿った実習記録のあり方③ 第9回 部分実習時の日誌の書き方 第10回 保育内容に沿った実習記録のあり方④ 第11回 全日実習時の日誌の書き方 第12回 保育内容に沿った実習記録のあり方⑤ 第13回 保育の実践とその記録① 第14回 保育の実践とその記録② 第15回 保育所実習まとめの日誌について 第16回 まとめ</p>				
成績評価方法	出席率・提出物（模擬日誌）・授業態度				
テキスト	必要に応じてプリント配布				
持ち物	辞書・A4ファイル（1，2年生共通、袋型又は2つ穴）				
履修上の 注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物は期間内に遅れの場合は減点、未提出の場合不可とする ・実習に向けての授業になる為、出席率と授業態度を重視する 				

科目名	乳幼児保育 I	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	大高 恵	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			全		
レポート期間	なし		試験期間	授業16回目	
授業の目的	1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 5. 乳幼児保育における保育の計画・記録・評価について理解する。				
授業の概要	乳幼児の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者への支援の修得を目指す。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 乳幼児保育の意義・概念と歴史の変遷 第2回 乳幼児保育の一般化への経緯 第3回 乳幼児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 第4回 保育所における乳幼児保育 第5回 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳幼児保育 第6回 家庭的保育等における乳幼児保育 第7回 3歳未満児の保健・衛生・安全危機管理を考慮した生活と環境 第8回 3歳未満児の遊びと環境 第9回 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 第10回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 第11回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 第12回 乳幼児保育における計画・記録・評価 第13回 職員間の連携・協働 第14回 保護者との連携・協働 第15回 乳幼児保育と子育て支援 第16回 まとめ、試験				
成績評価方法	筆記試験・発表内容・提出物・授業への取り組み等				
テキスト					
持ち物	筆記用具				
履修上の 注意事項	積極的に授業に参加する事 授業中の私語、携帯電話は厳禁です				

科目名	保育の計画と評価	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	菅原大輔 菊池美奈・虎谷美香	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・幼必修
			全		
レポート期間	授業第7・9回		試験期間	授業最終日	
授業の目的	<p>保育者の捉え方一つ、環境の工夫一つで大きく変わるのが保育です。それを知ることで、保育における計画の意味が大きく見えてくるものです。単に記録や計画を立てるだけではなく、それが適切であるかを確かめながら保育の本質を見極めていけるようになることを学んでいきます。</p>				
授業の概要	<p>1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解すること。</p> <p>2. 全体的な計画と指導計画に作成について、その意義と方法を理解する。</p> <p>3. 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。</p>				
授業の計画	<p>第1回 オリエンテーション・保育の基本</p> <p>第2回 保育を計画する必要性</p> <p>第3回 保育の計画の種類と役割</p> <p>第4回 指導計画の必要性 - エピソード記述</p> <p>第5回 保育所における計画の考え方について</p> <p>第6回 保育課程と指導計画作成の考え方とポイント①</p> <p>第7回 保育課程と指導計画作成の考え方とポイント② - レポート I</p> <p>第8回 指導計画作成の実際</p> <p>第9回 日案から週案の作成 - 週案作成レポート II</p> <p>第10回 保育課程の見直しとプロセス</p> <p>第11回 子ども主体の保育の実践</p> <p>第12回 保育所における保育の評価の必要性</p> <p>第13回 保育士及び保育所の自己評価</p> <p>第14回 保育所と小学校における関係</p> <p>第15回 保育所児童保育要録のあり方</p> <p>第16回 まとめ・試験</p>				
成績評価方法	レポート課題提出と試験結果を踏まえた総合評価とします。				
テキスト	<p>「教育・保育カリキュラム論」</p> <p>千葉武夫・那須信樹編 中央法規出版</p>				
持ち物	テキスト・ノート(又はルーズリーフ式)・筆記用具				
履修上の 注意事項	<p>授業はテキストの他に、参考資料などを配布することもあります。</p> <p>各自、資料に関しての工夫をして下さい。</p>				

科目名	こども家庭福祉	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	澤 伊三男	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			全		
レポート期間			試験期間		授業最終日
授業の目的	保育士としてのこども家庭福祉に関する基本的な知識の習得				
授業の概要	1、板書による基本的事項の説明 2、作成したレジュメを利用した学習 3、視聴覚教材（ビデオ等）利用による知識の習得 ※この科目は、児童福祉施設で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業計画	第1回 福祉の概念、主な社会福祉分野と専門職 第2回 こども家庭福祉の概念と対象（well-being と well-fare） 第3回 世界人権宣言と子どもの権利条約 第4回 こども家庭福祉の歴史の変遷（イギリスを中心として） 第5回 こども家庭福祉の歴史の変遷 （日本の明治期から児童福祉法改正まで） 第6回 現代社会とこども家庭福祉1（少子高齢化の課題と家族構成の変遷） 第7回 現代社会とこども家庭福祉2 （子どもを中心とした生態学モデルと家族資源） 第8回 現代社会とこども家庭福祉3（貧困がもたらす子どもへの影響） 第9回 現代社会とこども家庭福祉4 （子どもへの虐待に至るメカニズムと虐待を防止するために） 第10回 ひとり親家庭への支援と子どもの健全育成 第11回 保育における子ども・家族支援に必要な視点 第12回 ひとり親家庭・多問題家庭の抱える生活課題と必要な視点 第13回 児童福祉法及び児童家庭福祉関連法 第14回 こども家庭福祉に関わる保健・社会保障制度と社会手当 第15回 こども家庭福祉の行政及び専門機関・児童関係施設 第16回 期末試験				
成績評価方法	ペーパーテスト、出席率、授業態度等を総合的に評価				
テキスト	配布したレジュメ				
持ち物	レジュメ、テキスト				
履修上の 注意事項	授業への積極的な参加				

科目名	社会福祉論	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	大場 信一	開講時期	1年後期	必選区分・資格・免許	保・幼・必修
			全		
レポート期間		試験期間		授業最終日	
授業の目的	保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び、社会福祉における子ども家庭支援の視点、制度、方法などについて学ぶ。				
授業の概要	子ども家庭福祉との関連の中で、望ましい保育者となるために、社会福祉の意義や歴史の変遷、その運営の制度や技術について理解を深める。 ※この科目は、児童福祉施設で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、社会福祉の理念…共生社会を目指して 2、社会福祉の歴史の変遷…基礎構造改革への流れ 3、子ども家庭支援と社会福祉…日本で里親が根付かないのは 4、社会福祉の制度と法体系…社会福祉事業法から社会福祉法へ 5、社会福祉施設 6、社会福祉の専門職 7、社会保障と関連制度…子どもの貧困をどう守る 8、相談援助の理念…当事者主体の推進 9、相談援助の対象者…虐待をする大人、された子ども 10、相談援助の方法…コーチング理論はどうして生まれたか 11、相談援助の課程～評価へ 12、情報提供・個人情報保護・第三者評価・苦情解決 13、諸外国の動向…施設ゼロ宣言をした国 14、在宅福祉、地域福祉の推進…ボランティア社会 15、今後の福祉の在り方…福祉コミュニティづくり 				
成績評価方法	試験、授業態度、出席率				
テキスト	学校指定教科書：豊岡短期大学発行教本（両コース共）				
持ち物	筆記用具、配付資料				
履修上の注意事項	積極的に授業に参加すること。				

科目名	こどもの発達と家庭支援	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	渡辺 隼人	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			全		
レポート期間	講師の指定した日	試験期間	授業最終日		
授業の目的	生涯発達の観点から発達のプロセスや初期発達の重要性について理解し、保育との関連性について考え、子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題について理解する。子育て家庭に関する現状と課題を把握し、子育てを取り巻く社会的状況と課題について理解する。				
授業の概要	生涯発達に関する知識を深め、乳幼児期から老年期に至る発達段階と発達課題等について学ぶ。家族・家庭の意義や機能を把握するとともに、子育て家庭に関する現状と課題について修得する。家庭教育支援上の課題についても学ぶ。				
授業の計画	第1回 乳児期の発達 第2回 幼児期の発達 第3回 学童期の発達 第4回 青年期の発達 第5回 成人期・中年期の発達 第6回 老年期の発達 第7回 家族・家庭の意義と機能 第8回 親子関係・家族関係の理解 第9回 子育ての経験と親としての育ち 第10回 子育てを取り巻く社会的状況 第11回 ライフコースと仕事・子育て 第12回 多様な家庭とその理解 第13回 特別な配慮を要する家庭 第14回 子どもの生活・生育環境とその影響 第15回 子どもの心の健康に関わる問題 第16回 まとめ・試験				
成績評価方法	試験・出席率				
テキスト	学校指定テキスト				
持ち物	テキスト・筆記用具				
履修上の 注意事項	積極的に授業に参加すること				

科目名	こどもの健康と安全	単位	1	学科	こども学科
		時間	8	授業形態	講義・演習
担当教員	奥野 啓子	開講 時期	2年前期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			集中		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	小児保健で習得した知識を統合し、子どもの健康・安全にかかわる保健的対応を学び、発達・障害などに即した適切な具体的援助を学ぶ。				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における子どもの健康問題や地域保健活動について理解する。 ・保育における衛生管理・事故防止および安全対策・危機管理・災害管理について具体的に理解する。 ・子どもの体調不良や傷害（応急処置・救急処置）に対する適切な対応について理解する。 ・日常で行われる保育における保健的対応について理解する。 				
授業の計画	<p>第1回 オリエンテーション、 保育における健康および安全の管理 1. 事故防止および安全対策（講義）（ワークシート） 2. 危機管理・災害への備え（講義）</p> <p>第2回 子どもの体調不良などに対する適切な対応（講義・課題）</p> <p>第3回 子どもの体調不調の対応（課題） 演習：手洗い・身体計測（ワークシート）</p> <p>第4回 演習：手洗い・身体計測（ワークシート）</p> <p>第5回 感染症対策（講義）（ワークシート）・嘔吐時の対応（ワークシート） 演習：ゴム手袋着脱</p> <p>第6回 演習：緊急時対応（誤嚥・心肺蘇生・エピペン）（ワークシート） 誤嚥（課題）、環境整備（課題）</p> <p>第7回 演習：緊急時対応（誤嚥・心肺蘇生・エピペン）（ワークシート） 個別的な配慮を要する子どもへの対応（講義）（課題） 健康および安全の管理の実施体制（講義）（課題）</p> <p>第8回 最終試験</p>				
成績評価方法	出席・授業態度・提出物および小テスト				
テキスト	「子どもの保健」豊岡短期大学 「子どもの健康と安全」学健書院 「子どもの保健」学健書院				
持ち物	テキスト・資料・筆記用具・演習時（エプロン・電卓・小タオル・上靴着用）				
履修上の 注意事項	演習・ワークシート・課題作成が多い科目です。事前に必要物品を指示しますので、必ず持参すること。提出物の期限は厳守。 <u>再試験というのはありませんので、不可になった場合は再受講となります。</u> <u>欠席・遅刻は厳禁です。</u> 授業や実習中の態度に注意すること				

科目名	こどもの保健	単位	2	学科	こども学科
		時間	16	授業形態	講義
担当教員	奥野 啓子	開講時期	2年前期	必選区分・資格・免許	保・幼・必修
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	<p>①子どもの身体的発育・発達段階を理解し、保育実践に活かす。</p> <p>②子どもを取り巻く多様な環境を理解し、他者との連携をとりながら保育を行なうことができる。</p>				
授業の概要	<p>①小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的・生理的・社会性も踏まえた精神機能の発達について理解する。</p> <p>②発達段階における子どもの病気の特徴や予防について学び、健康状態の把握の方法、他の関係機関との連携の在り方を学び適切な対応について理解する。</p> <p>③子どもの保健衛生活動に関連する機関・施設の役割について理解する。</p>				
授業の計画	<p>第1回 子どもの心身の健康と保健の意義 小テスト①</p> <p>第2回 身体発育および運動機能の発達と保健①</p> <p>第3回 身体発育および運動機能の発達と保健② 小テスト②</p> <p>第4回 生理機能の発達と保健 小テスト③</p> <p>第5回 精神機能の発達と保健、子どものこころとからだ（虐待含）小テスト④</p> <p>第6回 子どもの心身の健康状態とその把握 小テスト⑤</p> <p>第7回 子どもの疾病の予防および適切な対応 ①感染症の基礎知識</p> <p>第8回 ②子どもの感染症と予防および対策 小テスト⑥</p> <p>第9回 アレルギー疾患 小テスト⑦</p> <p>第10回 口と歯の健康 小テスト⑧</p> <p>第11回 先天性疾患と早期発見（障害児含） 小テスト⑨</p> <p>第12回 その他の疾患 ①循環器 ②呼吸器 小テスト⑩</p> <p>第13回 ③消化器 ④泌尿器 小テスト⑪</p> <p>第14回 ⑤脳神経 ⑥内分泌 小テスト⑫</p> <p>第15回 ⑦感覚器 ⑧運動器 小テスト⑬</p> <p>第16回 最終試験</p>				
成績評価方法	小テスト 30%・最終試験 60%・平常点（出欠席・授業態度） 10%で総合的に評価				
テキスト	<p>「子どもの保健」豊岡短期大学</p> <p>「子どもの保健」学健書院</p> <p>「子どもの健康と安全」学健書院</p>				
持ち物	テキスト・筆記用具				
履修上の注意事項	<p>小テストはテキスト・プリント・板書から出題しますので、きちんとノートをとってください。</p> <p>小テストを中心に最終試験の問題がでますので、最終試験まで保管してください。欠席した場合は、次の授業前にプリント・小テストを取りに来てください。</p>				

科目名	日誌指導Ⅱ	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	虎谷 美香 伊藤 咲希	開講 時期	2年前期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			全		
レポート期間	随時提示（模擬日誌）		試験期間		
授業の目的	幼稚園実習に向けて、実習日誌の記録方法を学ぶ。 実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用方法について理解を深める。				
授業の概要	幼稚園実習の日誌の書き方について演習を通して学ぶ。 実践記録としての日誌の活用方法について理解を深める。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション 幼稚園と保育所の違いについて 幼稚園の特色について 第2回 週案について 第3回 実習記録の書き方説明と実践① 第4回 実習記録の書き方説明と実践② 第5回 実習記録の書き方説明と実践③ 第6回 一日の反省及び考察の書き方 第7回 本日の実習目標の立て方 第8回 総括反省の書き方・自由記録の使い方 まとめ				
成績評価方法	出席率・提出物（模擬日誌）・授業態度				
テキスト	配布プリント				
持ち物	幼稚園教育実習簿、辞書・A4ファイル、定規				
履修上の 注意事項	実習準備科目の為、全出席を望みます。プリント配布や提出物がありますので、 欠席した場合は担当教員まで確認に来ること。				

科目名	ピアノⅢ	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	2年前期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全		
レポート期間			試験期間	各授業最終日	
授業の目的	ピアノⅠ・Ⅱを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、演奏技術・技能を学習する。				
授業の概要	進度に適した課題曲を選び、曲の表現や演奏法を学ぶ。				
授業の計画	第1回 音符・休符・発想記号を正確に演奏する 第2回 音符・休符・発想記号を正確に演奏する 第3回 音符・休符・発想記号を正確に演奏する 第4回 速度・調・拍子などそれぞれの特徴を習得する。 第5回 速度・調・拍子などそれぞれの特徴を習得する。 第6回 速度・調・拍子などそれぞれの特徴を習得する。 第7回 模擬試験 速度・調・拍子などそれぞれの特徴を習得する。 第8回 ピアノ試験				
成績評価方法	出席状況及び受講態度・実技試験（ブルグミュラー25の練習曲以上を試験曲とする）				
テキスト	進度に適した教本（ブルグミュラー25の練習曲以上）				
持ち物	教本・ピアノカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	次回授業に備えてしっかりと事前に練習をしておくこと。 上靴を着用し、受講すること。 遅刻、長爪、マニキュア、指輪、教本忘れ、練習不足は欠席扱いとする。				

科目名	こどものうたⅡ	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	2年前期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育者として必要とされる弾き歌いの技術・技能を習得する。				
授業の概要	進度に適した課題曲を選び、曲の表現や演奏法を学ぶ。 こどものうたを基礎に、弾き歌いのレパートリーを拡大する。				
授業の計画	第1回 歌と伴奏のバランス 第2回 歌と伴奏のバランス 第3回 歌と伴奏のバランス 第4回 声をしっかり出しフレーズに合った息つぎで歌う 第5回 声をしっかり出しフレーズに合った息つぎで歌う 第6回 幼児のうたにふさわしいテンポでの演奏 第7回 模擬試験 幼児のうたにふさわしいテンポでの演奏 第8回 こどものうた試験				
成績評価方法	出席状況及び授講態度・実技試験				
テキスト	こどものうた200・続こどもうた200				
持ち物	教本・こどものうたカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	事前によく練習をしておくこと。 カードに記入した事に留意し、次回授業に備えてしっかりと練習しておくこと。 上靴着用、事前練習をし、受講する。 遅刻、長爪、マニキュア、指輪、教本忘れ、練習不足は欠席扱いとする。				

科目名	就職指導	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	若松 幹子	開講	2年前期・8コマ	必選区分・ 免許・資格	保・必修
		時期	2年後期・7コマ		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	就職活動に向けて試験対策を行い、知識と意識を高め志望先に就職することを目指す				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動に関わる、規則、方法などを理解する ・履歴書、志望動機の作成を通して、適性を知る。 ・専門職に対する認識と責任感を養う。 				
授業の計画	<p><前期分></p> <p>第1回 就職活動のルールを理解する。 職種を選んだ原点を知る。 自己分析により自己の適性を知る。 就職希望調査</p> <p>第2回 自己分析により自己の適性を知る。自己PR作成</p> <p>第3回 履歴書及び自己PR作成</p> <p>第4回 性格検査及び履歴書完成（提出）</p> <p>第5回 夏休み中の就職活動・対策について（公務員・実習先等）</p> <p>第6回 適性検査対策</p> <p>第7回 就職活動の流れ（見学から受験、内定後）について、面接対策</p> <p>第8回 求人票の見方、性格検査及び公務員模試結果配布</p> <p><後期分></p> <p>第9回 求人票の確認方法。面接時の質問意図について。 就職活動のルールの再確認。各種証明書申込みについて</p> <p>第10回 模擬面接体験</p> <p>第11回 面接対策の理解、内定後の流れについて</p> <p>第12回 就職活動のマナー、敬語及び誤表記しやすい漢字について</p> <p>第13回 内定後の書類提出について</p> <p>第14回 内定後研修について</p> <p>第15回 就業後の心構えについて</p>				
成績評価方法	受講状況（出席率）及び態度及び提出物（自己PR・履歴書）				
テキスト	必要に応じプリント配布				
持ち物	履歴書、ペン字用ペン、印鑑、辞書（電子可）筆記用具				
履修上の 注意事項	授業態度に注意する。欠席はしないこと。14・15回目は、1月に実施します。				

科目名	カリキュラム立案	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	宮ケ丁 絵美	開講	2年前期	必選区分・ 免許・資格	幼・選択必修
		時期	全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	カリキュラム立案の大切さを理解する。 幼稚園実習に向けて、立案の考え方と手順を学習する。				
授業の概要	幼稚園の教育内容とデイリープログラム、各年齢に適した活動内容を理解し、立案の考え方・手順を身に付け、部分案（設定保育）・1日案を立案する。 活動の展開に沿った保育者の援助を、適切な表現で記入する。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 カリキュラムとは <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの構成について ・ねらいの立て方、指導案記入時の言葉遣いについて ・実習生に適した活動内容 カリキュラムの書き方（製作案） 第2回 カリキュラム立案（製作案）① 第3回 カリキュラム立案（製作案）② 第4回 カリキュラムの書き方（ゲーム案） 第5回 カリキュラム立案（ゲーム案）① 第6回 カリキュラム立案（ゲーム案）② 第7回 カリキュラムの書き方（1日案）① 第8回 カリキュラムの書き方（1日案）② 幼稚園実習に向けて（まとめ）				
成績評価方法	出席状況・受講態度・提出物等、総合的に評価する				
テキスト	プリント配布				
持ち物	A4 ポケットファイル・辞書・筆記用具				
履修上の 注意事項	意欲的に授業に参加すること 提出物の未提出・提出遅れは認めない				

科目名	絵本・紙芝居 I	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	中山 瞳	開講 時期	2年前期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達における絵本・紙芝居の役割を理解し、保育現場での効果的な活用方法を学ぶ。 ・発達段階に合わせた絵本・紙芝居の特徴とその取り入れ方について実践し具体的に学習をする。 				
授業の概要	<p>子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境と、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養う児童文化財（絵本、紙芝居、ストーリーテリング等）について学ぶ。</p>				
授業の計画	<p>第1回 授業説明・絵本の歴史について・絵本読み聞かせ 第2回 絵本の役割と必要性について、製作など活動の導入方法 第3回 年齢ごとの発達と絵本の選び方について、絵本読み聞かせ実践 第4回 紙芝居の歴史・紙芝居とは、絵本と紙芝居の違いについて 第5回 オリジナル作品製作 第6回 オリジナル作品製作 第7回 ファイル提出、紙芝居読み聞かせ実践 第8回 まとめ</p> <p>※毎回、絵本（紙芝居）数冊を読みながらポイントを伝えていく</p>				
成績評価方法	授業態度・オリジナル絵本 or 紙芝居提出、発表				
テキスト	必要に応じプリント配布				
持ち物	ファイル、筆記用具				
履修上の 注意事項	<p>講義と実技を合わせて進めていきます。 実習、就職後に役立てるよう、ファイルを保管しておくこと。</p>				

科目名	乳幼児保育Ⅱ	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	黒木 郁子	開講時期	2年前期	必選区分・資格・免許	保・必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業8回目	
授業の目的	<p>1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する・</p> <p>2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</p> <p>3. 乳児保育における配慮と実際について、具体的に理解する。</p> <p>4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 「乳児保育」とは3歳未満児の保育を示す。</p>				
授業の概要	<p>3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について学ぶ。養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</p> <p>※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。</p>				
授業の計画	<p>第1回 乳児保育の基本①</p> <p>第2回 乳児保育の基本②</p> <p>第3回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際①</p> <p>第4回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際②</p> <p>第5回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際③</p> <p>第6回 乳児保育における配慮の実際①</p> <p>第7回 乳児保育における配慮の実際②</p> <p>第8回 乳児保育における計画の実際 まとめ 試験</p>				
成績評価方法	筆記試験・発表内容・提出物・授業への取り組み等				
テキスト	「乳幼児保育」				
持ち物	筆記用具・A4サイズのファイル、ルーズリーフ				
履修上の注意事項	積極的に授業に参加する事 授業中の私語、携帯電話は厳禁です				

科目名	社会的養護Ⅱ	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	佐藤 恵美子	開講 時期	2年前期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			集中		
レポート期間	講師の指定した日		試験期間	授業最終日	
授業の目的	社会的養護を実践していくために、社会的養護にかかわる課題や専門職に求められる役割を遂行するために学びを深める				
授業の概要	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。施設養護及び家庭養護の実際や社会的養護における計画・記録・自己評価、相談援助の方法・技術、子ども虐待防止と家庭支援について理解する。				
授業の計画	第1回 社会的養護における児童の権利擁護 第2回 社会的養護を担う専門職の職務と使命 第3回 家庭的養護と施設養護 第4回 施設養護におけるケアの流れ 第5回 支援計画の作成と実践と検証 第6回 社会的養護にかかわる専門的技術 第7回 社会的養護の今後の展望 第8回 まとめ・試験				
成績評価方法	課題・レポート・試験・出席率				
テキスト	講師指定				
持ち物	筆記用具				
履修上の 注意事項	積極的に授業に参加すること				

科目名	保育実習指導Ⅲ (施設)	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	講義
担当教員	宮崎 博一	開講 時期	2年前期	必選区分・ 資格・免許	保・選択必修
			全		
レポート期間	なし	試験期間	授業8回目		
授業の目的	1. 保育実習(施設)の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 保育の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に関する課題や認識を明確にする。				
授業の概要	障がい児・者の支援についての理解・支援の実践を知り、実習に向け意義と目的を理解する 障がい児・者施設での実習に向けて基本的な知識と心構えを学ぶ ※この科目は、児童福祉施設又は社会福祉施設で実務経験のある教員が実践的教 育を行っています。				
授業の計画	第一回 障害者施設の役割と機能 第二回 障害児支援体制の理解 第三回 障害の理解と関わり方、保育士の役割 ～児童発達支援～ 第四回 障害の理解と関わり方、保育士の役割 ～放課後等デイサービス～ 第五回 障害の理解 第六回 実習生としての心構えと現場の実践 第七回 実習生としての心構えと現場の実践 第八回 まとめ 及び 試験				
成績評価方法	出席状況 受講態度及び試験				
テキスト	講師の指定した教本				
持ち物	テキスト 筆記用具 ノート				
履修上の 注意事項	授業態度に注意すること 欠席しないこと				

科目名	保育実習指導Ⅱ (保育所)	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	中谷 摩美	開講 時期	2年前期	必選区分・ 資格・免許	保・選択必修
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 ・ 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ・ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ・ 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 				
授業の概要	<p>保育実習Ⅱ（保育所）について目的を理解し、保育実践力を培う。保育実習Ⅰを踏まえた保育の改善を実践を通して学び、総括・自己評価を経て、保育に対する課題を明確にする。</p> <p>※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。</p>				
授業の計画	<p>第1回 保育実習による総合的な学び 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解</p> <p>第2回 子どもの保育と保護者支援</p> <p>第3回 保育実習Ⅰ（保育所）を踏まえ保育実習Ⅱに向けて 子どもの状態に応じた適切な関わり</p> <p>第4回 保育の知識・技術を活かした保育実践</p> <p>第5回 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践</p> <p>第6回 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善</p> <p>第7回 保育士の専門性と職業倫理</p> <p>第8回 事後指導における実習の総括と評価</p> <p>①実習の総括と自己評価</p> <p>②課題の明確化</p>				
成績評価方法	出席率、授業態度、提出物				
テキスト	「新基本保育シリーズ 保育実習」中央法規				
持ち物	テキスト、A4ファイル（1年次保育実習指導Ⅰのファイル）、筆記用具				
履修上の 注意事項	保育実習Ⅱに向けての授業となります。				

科目名	こどもの理解と援助	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	岸 靖亮	開講 時期	2年後期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			後半		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育者には、子どもを理解したうえでの援助が求められる。本授業科目では、子ども理解を深めるための様々な視点や方法を学ぶとともに、それを踏まえた上での援助の考え方や方法を学ぶ。				
授業の概要	<p>授業計画の1～8では以下のことを習得することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの課程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 				
授業の計画	<p>第1回 子どもの実態に応じた発達や学びの把握①</p> <p>(1) 保育における子どもの理解の意義</p> <p>(2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開</p> <p>第2回 子どもの実態に応じた発達に応じた発達や学びの把握②</p> <p>(1) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり</p> <p>第3回 子どもを理解する視点①</p> <p>(1) 子どもの生活や遊び</p> <p>(2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達</p> <p>(3) 子ども相互の関わりと関係づくり</p> <p>(4) 集団における経験と育ち</p> <p>第4回 子どもを理解する視点②</p> <p>(1) 葛藤やつまずき</p> <p>(2) 保育の環境の理解と構成</p> <p>(3) 環境の変化や移行</p> <p>第5回 子どもを理解する方法①</p> <p>(1) 観察</p> <p>(2) 記録</p> <p>第6回 子どもを理解する方法②</p> <p>(1) 省察・評価</p> <p>(2) 職員間の対話</p> <p>(3) 保護者との情報の共有</p> <p>第7回 子どもの理解に基づく発達援助①</p> <p>(1) 発達の課題に応じた援助と関わり</p> <p>(2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助</p>				

	第8回 子どもの理解に基づく発達援助② (1)発達の連続性と就学への支援
成績評価方法	出席状況 受講態度 試験
テキスト	無し（ノートを取り、自身で資料を作成する）
持ち物	筆記用具、ノート
履修上の 注意事項	授業には意欲的に取り組み、毎時間ノートをしっかり取る

科目名	ピアノⅣ	単位	2	学科	こども学科 (保・幼)
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全		
レポート期間			試験期間	第16週目	
授業の目的	幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、演奏技術・技能を学習する。				
授業の概要	進度に適した課題曲を選び、曲の表現や演奏法を学ぶ。				
授業の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・音符、休符、発想記号を正確に演奏する。 ・曲想に適した演奏をする。 ・各種演奏法を取得する。 ・標題のついた曲（ブルグミュラー）で速度、調、拍子等それぞれの特徴を習得する。 <p>※以上の内容を15週目までのレッスンで習得し、16週目に試験を行う。</p>				
成績評価方法	出席状況及び受講態度・実技試験				
テキスト	進度に適した教本（ブルグミュラー25の練習曲以上）				
持ち物	教本・ピアノカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	遅刻、長爪、マニキュア、指輪、教本忘れ、練習不足は欠席扱いとする。 レッスン前後の挨拶をしっかりする。事前練習をしておくこと。				

科目名	ボランティア (選択)	単位	4	学科	こども学科
		時間	60	授業形態	演習
担当教員	若松 幹子	開講 時期	3年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全 (週2回)		
レポート期間	授業最終日		試験期間		
授業の目的	福祉施設でのボランティア活動をとおして、利用者とのコミュニケーションを図る。 福祉施設の作業内容を把握し、施設職員の役割を知る。				
授業の概要	毎週、札幌市内の小規模作業所に出向き、利用者と共に作業を行う。または、余暇活動に参加させてもらう。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション 諸注意事項の確認 ボランティア先の選定 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 振り返り 反省点、学んだことなどをレポートにまとめる				
成績評価方法	出席状況 ボランティア日誌の提出状況				
テキスト	特になし				
持ち物	ボランティア日誌、ボランティア先から指定されたもの				
履修上の 注意事項	ボランティア日誌は必ず持参する事。ボランティア終了後はボランティア先より出席確認印をもらい、必要事項を記入し毎回提出すること				

科目名	保育所保育指針 I	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	講義
担当教員	加福 圭子	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			前半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	<p>保育所保育指針に沿って現在の保育所・保育士の役割を学ぶ。 保育所保育指針を基に、現在の保育現状を把握する。 保育所保育指針を深く学習する事を通し、専門的知識を高める。</p>				
授業の概要	<p>平成 29 年 3 月に改訂された保育所保育指針のポイントを総則から保育内容、健康及び安全の各章について、具体的な事例を交えながら学び、保育所において子どもの健やかな育ちをどう保障していくのか考察する。</p> <p>※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。</p>				
授業の計画	<p>第 1 回 授業内容、評価、持ち物等について 保育所保育指針について</p> <p>第 2 回 第 1 章 総則</p> <p>第 3 回 第 2 章 保育の内容（乳児）、小テスト</p> <p>第 4 回 第 2 章 保育の内容（1 歳以上 3 歳未満児）</p> <p>第 5 回 第 2 章 保育の内容（3 歳以上）</p> <p>第 6 回 第 2 章 保育の内容（3 歳以上）</p> <p>第 7 回 第 2 章 保育の内容（3 歳以上）</p> <p>第 8 回 第 5 章 健康及び安全、 ①食育の推進 ②災害への備え 小テスト</p>				
成績評価方法	出席率・授業態度・小テストを総合的に評価する				
テキスト	「幼稚園教育要領」並びに「保育所保育指針（解説明含む）」 (ピンク色、通信教育補助教材)				
持ち物	保育所保育指針・A4 ファイル（どんな形でも可）				
履修上の 注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・評価に関しては特に授業態度、小テストを重視する。 ・プリントを配布しますので、必ず A4 ファイルを用意すること。 				

科目名	こどものうたⅢ	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育者として必要とされる弾き歌いの技術・技能を修得する。				
授業の概要	進度に適した課題曲を選び、曲の表現や演奏法を学ぶ。 こどものうたを基礎に、弾き歌いのレパートリーを拡大する。				
授業の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・発声法—姿勢、呼吸法 ・読譜力、リズムの練習 ・付点のリズムの正確な演奏 ・うたと伴奏のバランス ・主音三和音 ・歌詞をはっきりさせ声をしっかり出す ・歌詞の内容にあった表現 ・フレーズのあった息つぎ ・幼児のうたにふさわしいテンポでの演奏 <p>※以上の内容を15週目までのレッスンで習得し、16週目に試験を行う。</p>				
成績評価方法	出席状況及び授講態度・実技試験				
テキスト	こどものうた200・続こどものうた200				
持ち物	教本・こどものうたカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	遅刻、長爪、マニキュア、指輪、教本忘れ、練習不足は欠席扱いとする。 レッスン前後の挨拶をしっかりとる。事前練習をしておくこと。				

科目名	パソコン	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	高橋 文子	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			後半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	Windows の基本操作・代表的なアプリケーションソフトウェアの基本操作を学び、パソコンを利用する上で必要な知識と技術を身につける				
授業の概要	1年時に学習した基礎を発展させ、具体的な保育事例をもとに演習を行う。あわせて、デジカメ・USBメモリ・CD-ROM・プロジェクターなどの使用方法、パソコンを使用するうえでのルールとマナーを学習する。				
授業の計画	<p>第1回 Windows の基本操作・Word 演習1 (基本操作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイピング、CD-ROM のイラスト利用、ペイント、USB 保存 ・Word おたより <p>第2回 デジカメの活用方法、プロジェクターの利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真取り込み・印刷・加工 ・PowerPoint を利用したフォトアルバム作成 <p>第3回 Word 演習2 … はがき宛名印刷、図・図形・テキストボックス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年賀状、クリスマスカードの作成 ・プリンターの設定 <p>第4回 Word 演習3 … 表、図形、印刷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒園式プログラム作成、地図の作成 <p>第5回 Excel 演習1 … 表、関数、テーブル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Excel の基本操作、園児名簿作成 <p>第6回 PowerPoint … ページ設定、印刷、スライドショー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会ポスター作成、園紹介スライド作成 <p>第7回 情報リテラシー・Word と Excel の総復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著作権、肖像権、個人情報等知識の確認 ・Word と Excel の復習問題 <p>第8回 保育業務支援ソフト・幼児のメディア活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年の動向 ・スクラッチ (Scratch) によるプログラミング体験 				
成績評価方法	課題提出・出席状況・授業態度等総合的に評価する				
テキスト	配布テキスト・プリント				
持ち物	配布資料、筆記用具				
履修上の 注意事項					

科目名	保育者の心得	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	伊藤 咲希	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			後半		
レポート期間	随意提示		試験期間		
授業の目的	幼児保育、教育の専門家としての自覚を持つ こどもの視野に立った姿勢について学ぶ 教育組織の中のひとりとしての役割について理解する				
授業の概要	幼児保育・教育現場での専門職としての役割について理解を深める こどもや保護者、職員との関わりや社会人としてのマナーについて、演習を通して学ぶ				
授業の計画	第1回 オリエンテーション「保護者への自己紹介の仕方について」 第2回 「園行事について」 第3回 「家庭訪問・個人懇談について」 第4回 「おたよりについて」 第5回 「おたより・連絡帳の書き方について」 第6回 「園での怪我や事故の対応、予防について」 第7回 「年中行事について」 第8回 「新年度準備について」・まとめ				
成績評価方法	出席状況及び提出物、小テスト、最終授業日に試験				
テキスト	授業毎にプリント配布				
持ち物	授業配布プリント				
履修上の 注意事項	就業後対応科目の為、欠席しない事。 演習については、積極的態で参加する事。				

科目名	保育所保育指針Ⅱ	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	講義
担当教員	加福 圭子	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			後半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	保育所保育指針に沿って現在の保育所・保育士の役割を学ぶ。				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針を基に、現在の保育現状を把握する。 ・保育所保育指針を深く学習する事を通し、専門的知識を高める。 				
授業の計画	第1回 第3章 健康及び安全 第2回 第3章 健康及び安全 第3回 第4章 子育て支援、小テスト 第4回 第5章 職員の資質向上 第5回 認定こども園について、小テスト 第6回 伝染病・病気について 第7回 小テスト、グループワーク発表 第8回 まとめ				
成績評価方法	出席率・授業態度・小テストを総合的に評価する				
テキスト	「幼稚園教育要領」並びに「保育所保育指針（解説明含む）」 (ピンク色、通信教育補助教材)				
持ち物	保育所保育指針・A4ファイル（どんな形でも可）				
履修上の 注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・評価に関しては特に授業態度、小テストを重視する。 ・プリントを配布しますので、必ずA4ファイルを用意すること。 				

科目名	幼稚園教育要領	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	宮ケ丁 絵美	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	選択必修
			全		
レポート期間			試験期間	随時	
授業の目的	幼稚園教育要領に沿った、幼稚園や教師の役割について学びを深める				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領の改訂のポイントを知る。 ・幼稚園教育要領の内容について各章ごとに学び、幼稚園での生活・保育・教育の取り組みを知る。 ・幼稚園の実際を理解し、活用の方法を学ぶ。 				
授業の計画	第1回 幼稚園実習の振り返り（教諭の姿、子どもの姿、活動、環境等） 幼稚園教育要領とは 第2回 幼稚園教育要領全体の概要 第3回 幼稚園教育要領の歴史・改訂について 第4回 認定こども園について 第5回 第1章 総則 第6回 第2章<五領域>健康 第7回 健康～幼稚園での取り組み① 第8回 健康～幼稚園での取り組み② 第9回 健康～生活習慣について 第10回 <五領域>人間関係 第11回 <五領域>環境 第12回 <五領域>言葉 第13回 <五領域>表現 第14回 振り返り・小テスト 第15回 第3章 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動 などの留意事項 第16回 まとめ・幼稚園での取り組み③				
成績評価方法	出席状況、小テスト、提出物、受講態度を総合的に評価				
テキスト	「幼稚園教育要領解説」				
持ち物	テキスト、蛍光マーカー、A4ファイル（ポケットタイプ）				
履修上の 注意事項	プリント配布や提出物があるので、欠席した場合は必ずその都度、担当教員まで確認に来ること				

科目名	障がい者福祉論 (幼・保コースのみ選択)	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	講義
担当教員	橘 文也	開講 時期	保～2年前期・全	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			幼・保～2年後期・後		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	障がい（身体・知的・精神・発達）のある方達に対する我が国における福祉法制度・施策等を学び、福祉支援を提供する側にとって必要とされる支援スタッフの資質とは何かを知り、現場での即戦力となれるようその力を養うことを目的とする				
授業の概要	福祉の援助を必要とする障がいのある方たちの具体的なニーズは何か、その受け皿となる援助制度の仕組み、事業の種類とその内容を学習し、障がい当事者の人権擁護に務め、基本的な人権を尊重する姿勢を持つ事が出来るよう、障がい当事者の意見を直接聞く機会を設定するなど授業の流れとする				
授業の計画	<p>第1回 講義概要と対象とする障がいの範囲と表記について</p> <p>第2回 発達障がいについて 障がい種別と支援の方法等</p> <p>第3回 精神障がいの疾病について</p> <p>第4回 身体障がいについて 対象となる障がい種別と障がい当事者を招き、バリアフリー等の状況を学ぶ</p> <p>第5回 知的障がいについて 障がい特性を学習し、障がい当事者を招き交流する。</p> <p>第6回 障がいの原因について及びダウン症等の支援の在り方</p> <p>第7回 障害者総合支援法について 指定支援事業種別等</p> <p>第8回 まとめテスト</p>				
成績評価方法	試験及び出席状況と授業態度等、総合的に評価する				
テキスト	無し				
持ち物	筆記用具				
履修上の 注意事項	授業態度に気を付け、積極的に授業に参加する事				

科目名	保育の英会話（選択）	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	田中 純一	開講	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
		時期	後半		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	コミュニケーション・ツールとしての英語を念頭に、演習・ゲーム・歌などを通じて日常的な英語を身に付け、実践的なコミュニケーション能力を育成する。				
授業の概要	英語の挨拶・わらべ歌・ゲームで口慣らしをします。その後プリントを配布、要点が解説され、演習問題に各自が取り組み発表し、それを添削し正解が解説されます。さらに会話形式で質問・応答練習ならびに音声教材を利用したリスニング練習を行います。				
授業の計画	第1回 登園時・降園時の会話 第2回 ありがとうの表現 第3回 排泄 第4回 食事 第5回 褒め言葉 第6回 注意する言葉 第7回 保健子供の状態を表す表現 第8回 インタビューテスト				
成績評価方法	面接試験（インタビューテスト）・授業態度・出席状況で評価する				
テキスト	プリント配布				
持ち物	筆記用具・英和辞典または電子辞書を持参のこと				
履修上の 注意事項	授業中の携帯電話辞書使用は禁止とする				

科目名	人形劇 (選択)	単位	4	学科	こども学科
		時間	60	授業形態	演習
担当教員	加福 圭子 鈴木 楓	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全 (週2回)		
レポート期間			試験期間	発表会当日	
授業の目的	人形劇の成り立ちや作成過程への理解を深め、作品や人形製作の基礎を身に付け、実践し、人形劇を発表するまでの過程を学ぶ。				
授業の概要	これまでの授業で学んだ実践活動や製作活動を活かし、仲間と協力をして台本・人形・小道具を作り上げ、演じるまでの一連の流れを体験し、人形劇作品を完成させる。				
授業の計画	<p>第1週 授業説明、人形劇の理解 (成り立ち、人形の種類) 人形劇完成までの流れ (台本→人形・小道具製作→演出→発表) ビデオ鑑賞からの学び (NHK 人形劇・卒業生の人形劇発表映像)</p> <p>第2週 グループ決定、グループ活動 (作品・役割り分担の話し合い) シナリオの構成について (起用転結の効果的な構成の仕方)</p> <p>第3週 台本作成 (話の大まかな流れの話し合い)・人形土台の作成</p> <p>第4週 台本作成 (セリフ・細かな流れの決定の話し合い)・人形の形成</p> <p>第5週 人形作成 (土台やすりがけ)・衣装の作成 (デザイン・型紙おこし)</p> <p>第6週 人形作成 (新聞紙と半紙貼り)・衣装の作成 (布裁断・縫製)</p> <p>第7週 人形作成 (色塗り・表情入れ)・衣装の作成 (布裁断・縫製)</p> <p>第8週 人形作成 (ニス塗り・頭髪付け)・背景デザイン (下書き)</p> <p>第9週 人形作成 (衣装の取り付け・完成)・背景デザイン (色塗り)</p> <p>第10週 小道具作成・背景デザイン (色塗り)</p> <p>第11週 小道具作成・</p> <p>第12週 台本読み合わせ (ピアノ・効果音・照明の脚色)</p> <p>第13週 演技指導 (人形の動かし方、舞台の使用方の指導と実践)</p> <p>第14週 演技練習① (舞台上で動かし、全体の流れを見ながら演技の修正や補足を行う)</p> <p>第15週 演技練習② (舞台上で動かし、全体の流れを見ながら演技の修正や補足を行う)</p> <p>第16週 演技練習③ (作品完成)</p> <p>※毎回グループで話し合いをし、作業を分担しながら作成していく</p>				
成績評価方法	出席状況・授業態度・発表内容を総合的に評価する				
テキスト	プリント配布				
持ち物	随時提示				
履修上の 注意事項	協調性を持ち、一人ひとりが作品完成に向けて意欲的に参加すること				

科目名	育児コミュニケーション (選択)	単位	4	学科	こども学科
		時間	60	授業形態	演習
担当教員	宮ケ丁 絵美	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全(週2コマ)		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	育児についての知識を深め、現代の育児状況を理解した上で、保育士としての自覚を持ち子どもとの関わりを持てるようにする。				
授業の概要	実際に地域の親子と関わり、育児の重要性、育児の現状について知る。				
授業の計画	第1回 親子との関わり方の注意点・留意点について事前学習する。 第2回 地域の施設へのボランティア活動 第3回 育児広場開催に向けての準備 第4回 育児広場開催 第5回 地域の施設へのボランティア活動 第6回 育児広場開催に向けての準備 第7回 育児広場開催 第8回 地域の施設へのボランティア活動 第9回 育児広場開催に向けての準備 第10回 育児広場開催に向けての準備 第11回 地域の施設へのボランティア活動 第12回 育児広場開催 第13回 地域の施設へのボランティア活動 第14回 育児広場開催 第15回 地域の施設へのボランティア活動 第16回 まとめ・反省会				
成績評価方法	授業態度・提出物				
テキスト	なし				
持ち物	筆記用具、ボランティア先から指定されたもの				
履修上の 注意事項	服装、身だしなみ				

科目名	絵本・紙芝居Ⅱ(選択)	単位	4	学科	こども学科
		時間	60	授業形態	演習
担当教員	菊池 美奈	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全(週2コマ)		
レポート期間			試験期間	発表会当日	
授業の目的	絵本・紙芝居についての理解を深める。 大型紙芝居、絵本製作の基礎知識を学び、製作し発表する。				
授業の概要	発表会に向け、「絵本・紙芝居」の授業を生かし、製作・発表する。				
授業の計画	第1回 授業について 授業の評価について 題材探し、題材決定 第2回 ミニ絵本製作、台本班・仕掛け班のグループ分け 第3回 製作(下書き) 第4回 製作(下書き) 第5回 製作(下書き) 第6回 製作(下書き) 第7回 製作(色塗り) 第8回 製作(色塗り) 第9回 製作(色塗り) 第10回 製作(色塗り) 第11回 製作(色塗り)、発表会の役割決め(各担当の活動) 第12回 製作(色塗り)、各担当の活動 第13回 製作(色塗り・完成) 第14回 発表練習・修正 第15回 発表練習・修正 第16回 発表練習				
成績評価方法	出席状況、受講態度、定期試験(発表)				
テキスト	なし				
持ち物	筆記用具 適宜、授業内で次回の授業の持ち物は伝えます(ハサミ、定規(30cm)、カッター等)				
履修上の 注意事項	・卒業に向けての授業となるので、全員で協力しながら授業に積極的に参加すること。				

科目名	オペレッタ (選択)	単位	4	学科	こども学科
		時間	60	授業形態	演習
担当教員	伊藤 咲希	開講	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
		時期	全 (週2回)		
レポート期間			試験期間	発表会当日	
授業の目的	実践を通して自らの感性を磨き、イメージ豊かで多様な表現活動を目指す。				
授業の概要	卒業発表に向け、これまでの授業で学んだ実践活動（ピアノ、歌、踊り、演技、製作など）を活かし、それぞれが工夫した表現を考察し、楽しんで表現し、協力しながら作品を作り上げていく。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 幼児の表現活動について（遊戯 歌 劇 舞踊劇等） オペレッタについて（歌 音楽 劇のバランス 小道具など） ビデオ鑑賞①（作品をみての感想） 第2回 作品が完成するまでの過程 音楽の効果など知る ビデオ鑑賞② 第3回 表現遊び 第4回 卒業発表に向け、作品を決める（配役・役割り分担） 第5回 台本、うた、音楽（効果音）づくり 第6回 台本、うた、音楽（効果音）づくり 第7回 台本読み合わせ、台本に合わせて練習 第8回 練習 大道具づくり 第9回 練習 大道具づくり 第10回 練習 大道具づくり 第11回 練習 衣装 大道具完成 第12回 練習 衣装 小道具づくり 第13回 練習 衣装 小道具づくり 第14回 練習 衣装 小道具づくり 手直し 第15回 練習 衣装をつけて練習 手直し 第16回 練習				
成績評価方法	出席状況、授業態度				
テキスト	なし				
持ち物	筆記用具、上靴着用				
履修上の 注意事項	協調性を持ち、一人ひとりが意欲的に参加する。				

科目名	こどもの食と栄養	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	齋藤 恭子	開講 時期	2年後期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業8回目・16回目	
授業の目的	ヒトが動物としてまた、人間らしく生きていくために何をどのように食べるべきなのかという基本を理解する。その上で、それを暮らしの中にどのような具体的な形で、こどもたちに伝えていくのかということをしつかりと理解し考え、身に付ける。				
授業の概要	1、レポート課題・単位認定試験出題を中心に、テキスト・参考書だけではなくより広い視点からこどもの食と栄養について深く理解する。 2、普段からあらゆる視点でこどもの食と栄養について興味関心を持ち、質問用紙等を活用して向上心を持って高い資質を身に付ける。				
授業の計画	第1回 こどもの健康と食生活の意義 第2回 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解 第3回 食事摂取基準・日本人の食生活の目標 第4回 ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解 第5回 こどもの食生活の現状と課題についての理解 第6回 食育実践のための基礎知識 第7回 保育所食育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備 第8回 特別な配慮を要するこどもへの対応・中間試験 第9回 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解 第10回 こどもの発育・発達と食生活 1) 離乳期 第11回 こどもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期 第12回 こどもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期 第13回 「楽しく食べるこどもに」の実践のための食育の基本と内容 第14回 食育の実践のための基本的知識の理解と実践法 第15回 特別な配慮を要するこどもへの支援 第16回 試験				
成績評価方法	試験・提出物・出席率・受講態度				
テキスト	「こどもの食と栄養」豊岡短期大学発行（両コース共）				
持ち物	テキスト・筆記用具・ノート・電卓（携帯電話付帯の電卓機能は使用不可）				
履修上の 注意事項	授業態度に注意すること。 欠席しないこと。				

科目名	こどもと体育	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	廣田 邦生	開講	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
		時期	全		
レポート期間			試験期間	授業の中で随時実施	
授業の目的	運動遊びとこどもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面がこどもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つのかを理解し具体的な援助方法を習得する。同時に、こどもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。				
授業の概要	発達段階に応じた運動遊びを準備し、グループ毎での発表を通して、理解を深め、同時にこども達が自主的に楽しく且つ安全に展開する援助方法を学ぶ。				
授業の計画	<p>1. 社会的背景を考慮しつつ</p> <p>①地域社会、社会環境の変化について</p> <p>②遊び空間、時間、遊びの仲間、遊び方法の変化について</p> <p>2. こどもの発育と運動遊びについて</p> <p>①身体・形態・機能・こころの発育発達</p> <p>②こどもの運動能力と運動技能の発達</p> <p>3. 基本的な動き</p> <p>①基本運動（歩・走・跳・投・押・引・転・登）</p> <p>②運動の機能（調整力：身体認知・空間認知）</p> <p>4. 用具を使わない遊び</p> <p>①年齢発達における遊び（ふれあい遊び、ごっこ遊び等）</p> <p>②グループ遊び（おおかみさん、はないちもんめ、鬼遊び等）</p> <p>5. 小型遊具を使った遊び</p> <p>①個人での競争遊び（縄跳び、輪投げ、フープくぐり遊び等）</p> <p>②グループでの競争遊び（おいかけっこ、ティーボールラン等）</p> <p>6. 操作性遊具や器具、身近な素材活用遊び</p> <p>①操作性遊具・器具活用遊び（ボール、フープ、縄、棒活用遊び等）</p> <p>②身近な素材活用遊び（新聞紙、タオル、段ボール、ペットボトル遊び等）</p> <p>7. 野外での幼児の遊び</p> <p>①野外活動の教育的意義と実践上の理解</p> <p>②野外活動の実践（砂・泥・川遊び、雪・そり遊び、プール遊び、キャンプ等）</p> <p>8. 遊びと安全管理</p> <p>①安全管理について（安全の考え方、物的管理、人的管理、援助指導における安全性の配慮、野外活動における安全面配慮、移動遊具・固定遊具の点検と活用時の安全配慮 等）</p>				
成績評価方法	授業への意欲、服装、発表内容など				
テキスト	なし				

持ち物	タオル・飲み物・筆記用具
履修上の 注意事項	ジャージ着用（パーカーや洋服のままは禁止）・上靴・アクセサリー禁止・髪 の長い学生は髪をまとめる ※上記が守られない場合は、減点対象となります

科目名	こども家庭支援論	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	小橋 明子	開講 時期	2年後期	必選区分 資格・免許	保.保幼 必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業のねらいと概要		<p>保育者が保護者に対する子育て支援の役割は二つあり、一つ目は保育所に通園する保護者支援と、二つ目は地域の保護者の支援があります。</p> <p>乳幼児期の発達を促すためには保護者との情報共有は必須であり、情報を共有する機会は、保育所であれば送迎時や行事等があり、地域の保護者とは園庭開放や地域子育て支援（子育て支援センター等）があります。この授業は子育て支援のあり方や親や子どもを取り巻く背景について学びます。</p>			
到達目標		<p>①保護者や子どもを取り巻く環境について述べるができる</p> <p>②子育てに関する関係機関や役割について述べるができる</p> <p>③子育て支援について考えることができる</p>			
準備学習 事後学習		新聞やニュース等、子育てに関することは日頃から情報を得ていること			
授業計画		<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども家庭支援論の意義と体制 2 家族とは 3 家族の変化と保育相談 4 保育所における保育と子育て支援（保育士の役割） 5 子どもの人権と法制度（子どもの最善の利益とは） 6 保護者と子どもの成長の喜びの共有（養育能力の向上） 7 特別な対応を要する家庭への支援 8 ひとり親家庭の子育て支援について 9 保護者同士の交流（グループワークの進め方） 10 児童虐待の現状 11 児童虐待の予防に向けて 12 支援困難事例の展開と関係機関の役割 13 要保護児童対策地域協議会とは 14 世界の子育て支援 15 地域の子育て支援 16 まとめ・テスト 			
授業評価方法		<p>授講態度 10% レポート 10% テスト 80%</p>			
テキスト		<p>「子育て支援」 小橋著者 中山書店</p>			
持ち物		<p>教科書、配布プリント等</p>			
履修上の注意事項					

科目名	障がい児保育	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	小橋 明子	開講時期	2年後期	必選区分資格・免許	保.保幼 必修
レポート期間		試験期間		授業最終日	
授業のねらいと概要	<p>授業では障がいの捉え方や障害に対する基本的知識を学びます。また障がいの種類や特性を理解し援助についても学びます。授業方法は、学生の理解を深めるために視聴覚教材の活用を図り、さらに事例を通してより具体的・実践的に学びます。</p>				
到達目標	<p>①障がいに対する理念や障がいの種類や特性を理解している ②保育現場でできる配慮や環境の工夫などを理解している</p>				
準備学習 事後学習	<p>授業では基本的な知識や技術を会得するが、障がいをもった子どもの理解と支援を深めるためには、関連する多くの情報に関心を持ち主体的に授業内容の拡大と深化を図ることが必要です。したがって、学外においても積極的に障がい児に関心をもち授業と照らし合わせながら考えることが求められます。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・障がい児保育の概要 2 「障がい」の概念・障がい保育の歴史 3 インクルージョンとは・保育者に求められる役割とは 4 脳の発達と障がい 5 障がい児の理解と保育における発達の援助 6 感覚統合について 7 視覚・聴覚障がい・言語障がい児の理解と援助 8 肢体不自由児の理解と援助 9 知的障がい児の理解と援助 10 発達障がい児の理解と援助 11 重症心身障がい児・医療的ケア児の理解と援助 12 特別な配慮を要する子どもの保育の実際 13 指導計画及び個別の支援計画の作成 14 発達を促す生活や遊びの環境・子ども同士の関わり合いと育ち合い 15 保護者や関係機関との連携 16 障がい保育の課題を考える・テスト 				
授業評価方法	<p>授講態度 10% レポート 10% テスト 80%</p>				
テキスト	<p>「障がい児保育」 小橋編著 中山書店</p>				
持ち物	<p>教科書、配布プリント等</p>				
履修上の注意事項					

科目名	子育て支援	単位	1	学科	こども学科
		時間	8	授業形態	集中
担当教員	武田 克江	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・幼・必修
			前半		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	<p>保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言・情報提供等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し身につける。</p> <p>子育て支援の意義や役割について理解し、保育者としての子育て支援の基本姿勢について関心を持ち、子育て支援の意義や役割、基本姿勢など、支援の実際を学ぶ。</p>				
授業の概要	<p>保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解するとともに、保育士の行う子育て支援の展開を学ぶ。</p>				
授業の計画	<p>第1回 保育士として子育て支援にかかわるために</p> <p>第2回 保育の専門性と子育て支援</p> <p>第3回 保育所を利用している保護者に対する子育て支援</p> <p>第4回 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働</p> <p>第5回 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）</p> <p>第6回 地域の子育て家庭に対する支援</p> <p>第7回 子どもの虐待の予防と対応</p> <p>第8回 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解</p>				
成績評価方法	試験及び出席状況と授業態度等、総合的に評価する				
テキスト	「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」				
持ち物	筆記用具				
履修上の 注意事項	授業態度に気を付け、積極的に授業に参加する事				

科目名	折紙	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	鈴木 一美	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	日本折紙協会：折紙講師資格取得を目指す。(後期前半)				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを見て、正しく折る。 ・テキスト作品作成、提出後は折紙ファイル作成授業(後期後半) 				
授業の計画	<p>第1回 テキスト作品 ・箱を作る ・折紙講師資格の説明 ・テキストの注意点、約束事を学ぶ。</p> <p>第2回 テキスト作品 } 正方基本形 第3回 テキスト作品 } 風船基本形 第4回 テキスト作品 } ツル基本形 第5回 テキスト作品 } 二そう船基本形 第6回 テキスト作品 } 魚基本形 第7回 テキスト作品 } かんのん基本形 第8回 テキスト作品 } カブト基本形 第9回 テキスト作品 } 凧基本形、かえる基本形</p> <p>第10回 オリエンテーション } 折紙作品作成、折り図作成 折紙ファイルの作り方 後期後半の授業の進め方、説明</p> <p>第11回 折り図作成 } 冬の作品作成 第12回 折り図作成 } 遊べる折紙作成 第13回 折り図作成 } 使える折紙作成 第14回 折り図作成 } 第15回 折り図作成 } 第16回 折り図作成 }</p>				
成績評価方法	テキスト作品の出来上がり。作受講態度(私語はしない)・出席状況				
テキスト	日本折紙協会テキスト				
持ち物	テキスト、折紙、ファイル、ハサミ、カッター、のり、定規、筆記用具				
履修上の 注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストをよく見て正しくつくること ・提出日は後期授業内に指定 <p><u>※事前の宿題があるので、準備して授業に臨むこと。</u></p>				

科目名	手話（選択）	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	若浜 ひろ子	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			後半		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	聴覚障害者の言語である「手話」の基本を学ぶ。また聴覚障害についても学び、手話との関連を理解する。聴覚障害についての基礎知識と自己紹介や日常生活など身近な話題に関する手話表現を学び、コミュニケーション意欲を高める。				
授業の概要	手話の成り立ちや聴覚障害者の生活について学習し、手話言語について知識を深める。会話例文を用いて基本的な手話表現技術を身につけることによって、手話によるコミュニケーション方法を学ぶ。				
授業の計画	第1回 授業の説明と注意事項 理論「聴覚障害の基礎知識」 実技「身振りで伝える」イメージ力をつける基礎知識 第2回 理論「手話の基礎知識」 挨拶、自己紹介、家族の手話表現 指文字で伝える 第3回 DVD鑑賞「わたしの大切な家族」・レポート 理論「福祉制度について」 第4回 家族、数の手話表現 第5回 理論「聴覚障害者の生活について」 趣味の手話表現、2人組で会話表現 時に関する手話表現Ⅰ 第6回 時に関する手話表現Ⅱ 会話練習Ⅰ（保育園で場面） 第7回 会話練習Ⅱ（保育園で場面） 読み取りの事前練習 第8回 実技試験（読み取り・小論文）				
成績評価方法	実技試験及び小論文・出席状況・授業態度などを総合的に評価する。				
テキスト	「さっぽろの手話」公益社団法人札幌聴覚障害者協会発行				
持ち物	テキスト、筆記用具				
履修上の 注意事項	授業に積極的に参加し、互いに協力しあってコミュニケーション力を高める。				

